

トキの移送・繁殖の方針について

1 分散飼育地からの繁殖個体の移送時期について

佐渡トキ保護センター及び野生復帰ステーションでは、現在149羽のトキ（昨年比－2）を飼育しており、健全な飼育管理を行うためには、現在の飼育数はほぼ限界に達していると思われる。

本年度、補正予算で野生復帰ステーションに新設ケージ2棟を建設する予定であるが、完成は来年3月の予定である。

また、予算状況で流動的な面もあるが、本年度トキ保護センターDケージの改修工事も計画しており、工事期間中はDケージの約30羽を別の場所に移す必要がある。

このため、各分散飼育地から一斉に繁殖個体が移送されると、ケージへの収容が極めて難しくなる。

については、返還時期を来春以降に延長することについて、各分散飼育地の収容能力の範囲で対応が可能であれば、次のような時期に返還を行うこととする。

ケース1：順化ケージで春放鳥の訓練を開始する来年の3～4月

ケース2：順化ケージで秋放鳥の訓練を開始する来年の6～7月

2 繁殖方針について

○野外での繁殖成功率を上げるため、引き続き多様な遺伝的系統（ホワヤン・イーシュイの孫など）を放鳥個体に加える。

○放鳥候補個体の繁殖は、野外でのペア形成率が高い自然繁殖（自然孵化・自然育雛）によることを徹底する。

○繁殖成績等を勘案し、必要に応じペアの組み替え等を検討する。